



「自分軸を探すことは難しい？」



4月から1年生のLHRでは、キャリアパスポートという冊子を用いてキャリア教育を行っています。そこでは、「3つの視点からアプローチして進路選択のヒントにしていきましょう。」と担任が生徒に伝えています。3つの視点とは、「興味（好きなこと）」「能力（できること）」「価値観（大切にしていること）」です。自分が何をしている時に一番やりがいを感じるのか、そして何を基準に進学先や会社を選んでいくのか。例えば、自動車のエンジンを調べて修理してみたい、電子工作をすることが好き、経済的に自立して都会で一人暮らしをしたい、地元就職にこだわりたい等々。自分の興味や大切にしたいことを書き出してみることで、「私が本当に望む生き方（働き方）」のヒントや、優先順位がなんとなくも見えてきたらラッキー、それは進路選択の第一歩です。

よく、進路室で求人票を見ている生徒から、「何がやりたいのかわからない。」と相談されることがあります。「職探しは自分探し」とも言われますが、仕事を決める上で、「これだけはゆずれないぞ。」という、ブレない自分軸みたいなものを作ることは、よほど経験の引き出しがたくさんある人でない限り、ひとりで見つけ出すことは難しいのではないかと思います。まず、働いた経験がないので働くとはどういうことなのかピンとこないし、本校に来る求人企業についても初めて見たり聞いたりすることがほとんどでしょう。そのため、「みんながこの会社は間違いないと言うから」と、他人軸を基準にして、誰かに会社選びをしてもらいたいと思う生徒の気持ちもよくわかります。でも、みんながいいという会社が本当に自分にとってのいい会社なののでしょうか。そこを見誤ってしまうと、たとえ在学中に内定が早く決まったとしても、来年の今頃、働きながら後悔しているかもしれません。一生懸命面接練習をした分、入社早々“離職フラグ”が立つことはできれば避けたいものですね・・・。

それでは、進学先や会社選びの基準となる、「自分軸」を探すためには一体どんな方法があるのでしょうか。私自身、特に悩める時など自然にそうなるのですが、ふらっと図書館や本屋に行ってみるのもアリだと思います。小説でもエッセイでも何でもいい。思わぬ「へえ、こんな考え方もアリか！」に出会えるかもしれません。ちなみに私事ではありますが、柘野 俊明著書の「放っておく力」という本に最近出会い、働き方や人間関係の在り方について新たな発見がありました。他には、NHK 総合の、「プロフェッショナル 仕事の流儀」「逆転人生 どん底からはい上がった人々の物語」「映像の世紀 バタフライエフェクト」等の番組視聴もおススメです。また、学校生活の中ではこんなシンプルな方法もあります。“進路について誰かに話す→周りの人の将来に対する考え方を聞く”、他者とシェアすることが、時に自分の刺激にもなります。1年生の進路LHRでは、キャリアパスポートのテーマに沿って書き出したことをグループシェアしたり、担任が、なぜ教員という道を選んだのかご自身の経験をカミングアウトしてくれたりします。2年生時のインターンシップや研修旅行、社会人講話等も自分探しのきっかけの一つだと意識し、色々な人の働き方や価値観を聞く機会だととらえましょう。

これまで学び経験してきたことを、「書かない」「言わない」「行動しない」から、「書き出す」「話す」「他者とシェアする」に行動を変えていくことで、「何がしたいのかわからない」という現状を少しずつ変えていけたらいいですね。こうしたインプット⇄アウトプットの繰り返しの中で、人は成功体験からは達成感を、失敗体験からは学びを得ます。そういえば近年の就職試験では、「あなたのこれまでの失敗（成功）体験から学び得たことは何ですか？」という質問をされる企業が多く、また、グループディスカッションを受験評価として重視する企業も増えています。ということは、LHRなどで自分の経験を書き出して他者と情報共有すること自体が受験対策にもなるので一石二鳥、特に1、2年生の皆さん！「好きなこと・できること・大切にしていること」この3つの視点から自分を知り、それらをアウトプットする練習を周りの人を巻き込んでぜひトライしましょう。

